

乳幼児教育支援センターから、幼稚園、保育所、認定こども園の先生方のお役に立つ情報をお届けします。

遊び学び育つひろしまっ子！

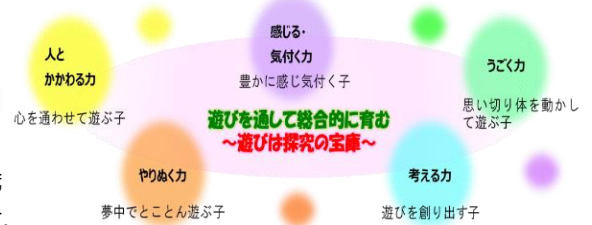
今年度も残すところ、あとわずかとなりました。コロナウイルス感染症の影響は様々ですが、それぞれの園・所で工夫を凝らしながら、歩みを進められた1年間だったのではないのでしょうか。また、そのような状況の中、幼児教育アドバイザー訪問の利用、研修への参加等、当センターの取組をご活用いただき、ありがとうございました。次年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。

R2・3年度 「遊び 学び 育つひろしまっ子！」の実現に向けた 乳児保育における5つの力の育み事業

平成29年の保育所保育指針等の改定（訂）で、乳児保育（乳児・1歳以上3歳未満児の保育）の意義がより明確化されました。この流れを受け、当センターでは、育みたい5つの力の育成を意識した乳児保育を実践し、3歳未満児における5つの力が、どのように生まれ、

どのように発揮されるのかを明らかにするための研究に取り組みました。

3月2日に行われた最終報告会では、研究開発指定園・所（4園）より、実践報告が行われ、担当講師の先生方から講評をいただきました。最後に、総評として、広島大学大学院中坪教授より、「乳児（0・1・2歳児）にとっての保育の意味とは」というお話をいただきました。



事業の主な取組内容



最終報告会実践報告

保育所ひかり学園



“子供ってやっぱり面白い！”
子供の姿に「そうきたか！」と驚いたり、一緒に面白がったり、不思議がったり、「そうだよね」と共感したりすることの大切さを認識する。

青雲保育園

0歳児クラス 9月のエピソード



ぼうし かぶらせてあげるね。
AくんはEくんの帽子がずれていることに気が付き、直してあげる。
Eくんも少し頭を低くして協力している。
何度も確認をする Aくん

“子供の思いに心を寄せて感じ取る”
私達は「子どもの思い」を感じていただろうか？「子どもの思い」を感じようとしていただろうかと問い直す。

みどりの森保育園

自然や社会の事象



“ありのままの姿を大切に…”
どうして、こんなことをしているんだろう？子供の表情やしぐさ、視線などをよく見る。

中黒瀬保育所



“子供から学ぶ”
生活の中の何気ない場面、大人が気にもかけないような場面で子供たちはたくさんの発見をしていることに気付く。

最終報告会
参加者アンケートより

子供の姿をもとに、5つの力の育ちを見取ることを通して、乳児（0・1・2歳児）が、生活や遊びの中で、豊かな学びをしていることを改めて知ることができました。

～公立こども園保育教諭～

小学校の立場から。幼保小連携の充実が必要と叫ばれながら、なかなか小学校側の意識改革が難しい現状があります。しかし、本日のご発表を聞き、幼保の先生方がどのように資質・能力ベースの学びを実現しているかとされているのか、その具体を知ることができました。これは、ぜひともほかの小学校教員にも伝えたい内容であると思いました。

～小学校教諭～

私は幼稚園で働いていて乳児と関わることがないので、今回とてもよい勉強になりました。何でも保育者が主導になりルールを決めていくのではなく、乳児の主体性を大切に子供を観ることや記録をすること、先生たちと話し合うことを大切にしていきたいと思います。このことは、乳児だけでなく、3・4・5歳児、小学校の子供たちに共通することだと思いました。

～私立幼稚園教諭～

人として最も大切なかかわりである、心と心の交流は、生まれた時から（命が芽生えたときから）始まっているのだと思いました。子供たちの持つ力を信じ、生きる力を持つ人として尊重することが大切だと思います。この報告会から、学んだことを自分の保育に生かしていきたいです。

～私立保育園保育士～

言葉で表現することが難しい子供たちの思いをきちんと受け止め、丁寧に関わっていくことの大切さを再確認しました。

～公立保育所保育士～

対話を通して、自分では気付けなかった子供の姿が見えることがわかり、実行改善することを意識したいと思いました。

～公立幼稚園教諭～

Message ～子供たちと向き合う先生方へ～ 広島大学大学院 中坪史典 教授

「ホノミ（2歳9ヶ月/女児）が両手を広げて私（保育者）の背中にくっついてきた。しばらくの間、ホノミに背中を貸していた。そのうち私は、身体を揺すってホノミとの触れ合いを楽しんだ。ベッタリと背中に張りついて甘えている。「ゆらゆらして」と、今度はホノミの方から催促が来た。私の背中とホノミのお腹がくっついたまま前後に揺れていた。」
このエピソードは、背中であやそうとする保育者とあやされたいホノミの気持ちが一致してはじめて成り立つ場面です。「おんぶ」や「抱っこ」のあやしは保育者本位であり、乳児は受け身ではありませんが、この場合は、乳児が求めないできません。ゆらゆらしてほしいという乳児本位と、触れ合いを楽しみたいという保育者本位が合わさって一つになるのです。この何気ないエピソードは、乳児保育における保育者と乳児の関係について、決して「あやす-あやされる」だけではないことを私たちに伝えていきます。



乳児本位と
保育者本位が
合わさって一つになる



中坪教授には、本県の施策推進のための様々な取組や当センター主催の研修講師等へ、御指導をいただいています。

令和4年度の
当センター事業・研修

※詳しくはHPをご覧ください。

各種研修会（無料）

乳幼児の育ちや学び、ペアレント・トレーニングの視点、園・所内研修の充実、カリキュラム等、多様なテーマの研修会を開催します。令和4年度実施予定の研修一覧をご確認ください。
★開催通知により申込みの上、ご参加ください。

幼児教育アドバイザー訪問事業（無料）

園・所での経験豊富な幼児教育アドバイザーが、園・所に寄り添いながら、乳幼児理解や環境構成、保育者の関わり方などについてアドバイスするなど園・所の教育・保育を支援します。
★ご希望の場合は、訪問依頼書を提出してください。

保育ソーシャルワーカー派遣事業（無料）

社会福祉士等の資格を有する保育ソーシャルワーカーが、園・所の困りごとの状況を整理して、社会資源を活用しながら、乳幼児やそのご家庭の支援をサポートします。
★ご希望の場合は、派遣依頼書を提出してください。

「育ちと学びを
なく」幼保小連携・
接続の充実事業

県内の市町を指定し、市町・市町教育委員会が連携し、地域の実情を生かした幼保小連携・接続の取組を行います。
取組の様子は、今後のニュースレター等でお伝えします。

【発行元及び連絡先】 広島県乳幼児教育支援センター 〒730-8514 広島市中区基町9-42
広島県教育委員会事務局（東館6階）TEL 082(513)4978 FAX 082(212)3331
広島県乳幼児教育支援センターホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>